

後援会副会長挨拶

「続ける大切さ、変える大切さ」

保護者並びに大学関係者の皆様には平素より後援会への御理解と多大なる御支援をいただき誠にありがとうございます。

2019年末より世界で猛威を振っている新型コロナウイルス感染症は、新たな変異種の登場により再び感染拡大が懸念される状況となっておりますが、経口治療薬の開発の報が流れるなど、一筋の希望の光が見えてきたといえる状況かと思えます。

早期の鎮静化に一役買ったワクチンのスピード開発にmRNAワクチン開発の技術が生かされたことはご存じのことと思いますが、この技術は決して急ごしらえで開発されたものではなく、実に30年間もの歳月をかけて様々な大学、企業の研究者が努力を積み重ねてきた成果が結実したものです。諦めずに不断の努力を重ねることの大切さを改めて認識させられる出来事だと思います。

一方、コロナ禍の影響を受けて大きく変わったものも数多くあります。身近なものとしてはテレワーク／リモート授業の普及です。小職が勤めるIT企業は、コロナ禍前はテレワーク拡大には慎重な姿勢でした。しかし緊急事態宣言の発出を受けてテレワーク率を70%に引き上げるよう一気に舵を切りました。当初は少々混乱した時期もありましたが、今では当たり前の光景となっています。当初懸念していた業務効率の悪化などは全くの杞憂に終わり、移動等の間接時間の削減など、逆に効率化できた部分が少なからず見えてきた状況です。保育園問題で復帰が遅れがちな育児休業者の早期復帰策としても活用できるのではないかなど更なる活用アイデアも出てきています。

とはいえ、様々な課題も見えてきています。テレワーク／リモート授業では伝わりづらい空気感の共有や雑談の難しさ、自宅の間取りが適していない、貧弱なネットワーク環境等々。

これらの課題の解決には多彩な学部を有する本学の学生、教授による研究、社会への提言がなされることを大いに期待しています。様々な出来事を見て、聞いて、感じて、これまで培ってきた知見と新たなアイデアを組み合わせ、共により良い社会を創っていきましょう。



東京都市大学 後援会 副会長 **山本 智之**